



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2014年 5月 2日発行

5月号 向日市寺戸町辰巳4-1-101号
No. 39 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

大山崎町住民が 長岡京市との 合併求め、直接請求 私たちは、どう受け止めるべきか？



杉谷伸夫・59才になりました
向日市議会議員・市民クラブ
上植野町イトーピア在住

4月30日、大山崎町の住民グループが、大山崎町と長岡京市の合併協議会の設置を求める直接請求を行いました。今後は、長岡京市の市長と市議会がどう判断するか、という段階になります。簡単に進むとは思えませんが、私たち向日市民は、これをどう受け止めるべきでしょうか。

両市町の合併については、私は直接意見を言う立場にありません。しかし向日市を含めた合併については、私は慎重意見です。合併のメリットは「行政の効率化」ですが、一方大きくなれば小回りがきかず、細かく目がゆき届きません。役所は住民の身近な方が望ましいのです。合併をして、今苦労している市町村がたくさんあります。

しかし大山崎町の住民がこうした取り組みをされたことは貴重な機会です。向日市も含めた乙訓地域の連携のあり方について考えたいと思います。それぞれの施設を利用し合ったり、共同運用すれば良いのに、と

思うものもあります。たとえば図書館は、2市1町で誰もが借りれるようにすれば良いし、巡回バスは乙訓地域の範囲で共同運行した方が、市民には便利なことも多いでしょう。2市1町の合併・連携の問題について、皆さんのご意見をお聞かせ頂けたらと思います。(2014年5月1日・杉谷伸夫)

市民の皆さんの声

- 9月に福島支援のボランティアに行き、浪江区に入り、3年前の3/11の状態のままであることに肝をつぶしました。東京電力に責任をとらせるべきです。安倍首相はベトナム、インド等に原発を輸出しようとしています。こんな首相は世界の恥で即刻退陣すべきです。避難され、仮設住宅に住んでいる人の苦労を知るべきです。
- 原発を再稼働させようとしているのが理解できない。こんな世の中を生きていけないといけないうのが嫌です。将来、子どもを産める立場になっても、産むのが不安です。
- 戦後築かれてきた民主主義を根こそぎ変えよう

5月の催しのご案内

★5月10日(土) 午前10時～

報告会

「軍隊のない国・コスタリカを訪ねて」

本紙に連載いただいている安野洋子さんのコスタリカ訪問のお話し・交流とビデオ上映。

会場：西向日コミセン(西向日駅西口すぐ)

としている安倍政権。集団的自衛権行使について、これだけ世論調査で反対があるのに、「閣議決定で通す」というのを、どうしたら止められるのでしょうか。自分のできることを少しでもしようと思っています。

連絡先

ご相談はまずお電話を！ TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



杉谷伸夫の

活 動 報 告

市民派議員学習・交流会

市政改革のカギは、 市民力と職員力！

4月24日、尼崎市で開かれた第91回近畿市民派議員交流・学習会に参加してきました。

稲村和美・尼崎市長は、市民派議員（県会議員）の経験を経て、3年前に当時38歳で全国最年少の女性市長になった方で、「市民参加と市役所改革」をテーマに講演。市政改革のカギは、市民力と職員力であると、それを高めるために取り組んで来られたことについて聞きました。いくつか印象に残ったことを紹介します。

市民参加の手段とされる「パブリックコメント」略して「パブコメ」ですが、多くの場合形だけになっています。いろんな計画や条例を練り上げて、最後の最後にパブコメにかけて市民の意見を聞くわけですが、そこで市民から重要な意見が出されても、もう根本的な修正はできないので、反映されません。そんなことを繰り返していたら、かえって市民のやる気をそいでしまいます。そこで尼

崎市では、まず初期の段階で、おおざっぱな行政の原案と、それをどのような日程でどのような手続きを経て市民意見を聞き、決定していくかのプロセスを公開するのです。重要政策は、作成段階から市民に公開せよ、と私が主張してきた当たり前のことを、尼崎市では実行していました！

また、庁内の会議の市民公開も、前市長の時代から実施しているそうです。私がアメリカ西海岸の都市を訪問した時に経験しましたが、市の様々な計画を検討する庁内会議は市民公開です。市の長期ビジョン検討会議に私も傍聴参加しました。

尼崎市は、人口減少で財政が厳しい中で、行政サービスの質を向上させるためには、市民力と職員力のアップが重要と位置づけ取り組んでいます。向日市にも共通することが多いと感じました。

中学校の弁当給食を試食

お昼は、中学校で始められている弁当給食を食べました。ゴマみそかつ弁当。味噌汁もついてて、おいしかった！350円。あったかいです。でも、やっぱりお弁当じゃなく、完全給食がいいです。この前の議会で、給食の実施を求める請願が、全会一致で採択されたとのこと。

私も中学校給食の実施を向日市で取り上げましたが、さて尼崎市ではどうするのか？



議会改革の取り組み

議会基本条例の検討に着手 傍聴者への資料配布等を確認

4月25日の議会活性化特別委員会で、これから議会基本条例の具体的な検討を進めていくことを決めました。私は大いに賛成ですが、「何のために作るのか」が大切だと思います。それは、3月議会で採択された市民の請願の通り、「市民のための議会へ改革」するためでなければいけません。単に議会のルールを定めるのではなく、議会に対する市民の権利、市民に対する議会の責任をはっきり定めるものでなければ、結局は「議員のた

めの議会改革」に終わってしまうでしょう。

具体的には、議会への市民参加と、それを保障するための情報公開が重要です。市民は議員と同じ情報を知ることができるようにする必要があります。第一歩として、議会に提出された議案は、すべてホームページで公開するようにしました。次は議会の模様が各家庭で観ることができるようにインターネット配信すること。また、議会に市民のみなさんの意見や専門知識が直接反映できるしくみが必要です。

4月25日の特別委員会では、まず、①一般質問の傍聴に来られた市民に、議員と同じ一般質問通告書を配布（貸与）する。②議員の市長に対する一般質問は、論点がわかりやすいように「一問一答」で行えるようにする。以上を実施していく方向となりました。今後、随時報告していきますので、皆様のご意見をお寄せください。（杉谷）

「本当のフクシマ」 写真展を開催 長岡京バンビオで

4月26～27日、JR長岡京駅前のバンビオ2階の市民ギャラリーで「本当のフクシマ」写真展を開催しました。この写真展は、希望するすべての人に放射能健康診断と医療補償を求める、健康診断百万人署名運動京都実行委員会が主催したもので、2日間で約170人の来場者がありました。

「真実が隠されていることがわかった」

通りがかりの市民も多数参加され「70人以上の子どもに甲状腺がんが見つかるなんて知らなかった」「真実が隠されていることがよくわかった」「もっと多くの人に知ってほしい」など、多くの感想が寄せられました。

取り組んで最もよかったことは、いろいろな人にお会いできたことです。十数年ぶりの人が大阪からご夫婦で来てくれたり、偶然通りかかったからと、これも十数年ぶりの方がお子様づれでいら



っしゃったりなど。福島から避難して来られたご家族が、「京都の方がこんな催しをして下さるので、絶対に行かなくては」と来てくださったのには感激しました。写真展というのは、「観る」場というより人と「語る」場なんだとわかりました。

長岡京市には、駅前の便利な所に立地するバンビオに、こうしたイベント会場がいくつもあります。また市民活動サポートセンター、生涯学習センター、男女共同参画センター、教育支援センターなど、市民活動を支援する機能が大変充実しています。向日市とのあまりの格差を感じます。これからのまちの力は市民の力です。市民活動を支援する施策の強化が必要だと感じました。(杉谷)

シリーズ 原発事故⑫

函館市が原発差し止め提訴 向日市でも事情は同じ

4月3日、函館市が青森県大間町で建設中の大間原発について、事業者のJパワー（電源開発）と国を相手取り、建設差し止めを求める訴訟を起こしました。原発差し止め訴訟で自治体が原告になるのは初めてです。

函館市は、対岸に建設中の大間原発まで23キロ。国は原発から30キロ圏内の自治体に、原発事故に備えた避難計画の作成を義務づけています。しかし、「万一深刻な事故が起きれば、27万人超の市



民の迅速な避難は不可能。市が壊滅状態になる事態も予想」（函館市長）されます。一方、函館市は原発の立地自治体で無いため、何の説明もなく、権限もありません。

函館市は「市民の生活を守り、生活支援の役割を担う自治体を維持する権利がある」と裁判をおこしましたが、これは函館市だけでなく、全国の自治体に当てはまることです。

京都府も向日市も人ごとではない

向日市もひとごとではありません。京都府の予測でも、若狭湾の原発で深刻な事故が起これば、風向きによって向日市民も屋内退避や避難が必要



になるのです。犠牲を強いられるのに何も言えない、このような原発政策に対して、自治体は住民を守る責任から、物申していくべきです。

「軍隊を捨てた国」 コスタリカを訪ねて (第3回・最終回)

安野 洋子



樹木に共棲する野生のラン(モンテベルデ自然保護区)

コスタリカへの旅は、深く国のあり方を考えさせてくれたと思う。

「子供の平和文化教育」と共に自然保護を大切にしている国には、安心・安全が有った。環境先進国と言われる国は、国土の26%を国立公園、自然保護区にしている。自然保護区の中でも最も有名なのは、「モンテベルデ」である。

エコツアー発祥地とも、バードウォッチングの聖地とも呼ばれている。

そしてその存在意義を高めているのは、ここにある生物の多様性にあると言う。100種の哺乳動物と共に2500種の植物が生育している。その中でも圧巻なのが高い樹木に共棲する着生植物である。その一種である野生のランだけでも420種類あると言う。

この地区はアメリカからクエーカー信者が移住して来たところである。

1948年に勃発した朝鮮戦争でアメリカの徴兵を拒否した平和主義者のクエーカー信者が、軍隊を捨てたコスタリカにたどり着いたのである。そしてここでコロニーの建設を始めた。

日米「安保条約」を「友好条約」に

「軍隊を捨てたコスタリカ」は、アメリカとの「友好条約」の下で守られている。「安保条約」ではないのだ。日本も「日米友好条約」にすることは出来ないのだろうか。国の状態が違うとは言え「憲法9条」を持っている日本も考えていいのではと思う。

くしくも「日本国憲法第9条」がノーベル平和賞候補として受理されたと言うではないか。

大きく期待したい。

街の話題

JR向日町駅 エレベーターが完成

4月20日、JR向日町駅バリアフリー工事が完成し、エレベーターが利用できるようになりました！市が当初計画した40数億円の橋上駅計画を、市民の反対と議会の否決で、バリアフリーに絞って早く実施するよう変更させたものです。

改札に入って左が従来の地下通路ですが、エレベーターは反対の右手。地下ではなく上に行き、線路をまたぐ通路を通って、ホームに降ります。改札の左には、きれいなトイレができました。車椅子利用可能、オストメイト対応です。視覚障がい者のための音声案内設備も設置されています。



JR向日町駅の次の課題は、東口の開設と駅前整備です。東口開設について京都市と協力し、構想段階から市民に公開して進めるべきです。

寺戸森本幹線1号道路が開通

同じ4月20日に、新しい向日市の幹線道路が開通し、記念式典に出席しました。「寺戸森本1号幹線」といって、前田地下道（数年前に幼稚園バスが水没した所）から向日町停車場線（JR向日町駅と阪急東向日駅をむすぶメイン道路）がつながりました。幅2.5メートルの歩道が整備され、向日市の中南部から駅へ、車も人も安心して通れます。

向日町停車場線の整備完了に続き、ようやく市内の道路整備が目に見えてきました。これから最大の懸案である、本市の背骨＝物集女街道の拡幅整備が始まります（中垣内交差点から北へ約250メートルの区間）。京都府の事業で、まだ用地交渉の段階ですが、2017年度工事完了の予定です。おおいに期待したいものです。